

# ひろばちがさき

NO. 1084

新政ちがさき

2015年3月13日 茅ヶ崎市茅ヶ崎1-1-1市役所内 0467(82)1111

新政ちがさき有志  
 岸正明 87-8766  
 こいそ妙子 52-6731  
 和田清 84-9969  
 よしかわ和夫 86-0032  
 早川ひとみ 52-8361

## 中核市は市民サービス向上につながるか！

市長は、施政方針演説で

「地方自治法の改正に伴い、中核市と特例市の制度が統合され、27年3月をもって特例市制度が廃止される。」

本市は、保健所政令市移行を目指している。人口規模も新たな中核市要件を備えている。地域の実情にあわせて、様々な課題に対しスピード感を持って、本市自らで決定することができ、安心して活力ある社会の実現を目指して中核市移行に向けた具体的な準備を開始する。」と述べています。

【注】地方分権の流れの中でかなりの業務が権限移譲されている中、現在人口30万人以上を中核市、20万人以上が特例市の条件としていますが、特例市が無くなり、中核市を人口20万人以上とするものです。茅ヶ崎市は人口約24万人ですから、一般市か中核市かを選択することになります。藤沢市は人口30万人を超えています。

すが、現在一般市です。

【会派の主張】事務負担が増え、職員の確保等の経費が市に発生しますが、その財源が保障されるわけではなく、市の負担増は避けられません。必要な経費負担を背負って、それに見合ったサービス向上につながらなければ、市としてのメリットは少ないと言えます。市長の説明では、「中核市ありき」と聞こえますが、我々は市民にとつての利益を冷静に分析し、一般市の選択もあると主張しています。

### 新学童は茅ヶ崎小と室田・松林小学校区に！

3月11日行われた環境厚生常任委員会で、実施予定の新しい学童保育が明らかになりました。

茅ヶ崎小学校区では、実施場所が確保されるまで、自治会館で行われ、運営は民間企業が行うとのことですが、室田・松林小学校区では、2校合同で行い、現在地主と交渉中との事でした。質疑の結果、全会一致で可決すべきものと決しました。本会議最終日に採決が行われます。

「これは、保健所政令市移行にも言えることですが、毎年1億を超える市の持ち出しがあり、その経費に見合うサービスが提供できるのかどうか、が重要です。しっかりと監視していきます。」

【会派の主張】対象年齢が兼ねてより我々が主張してきた通り、6年生まで拡大したことにより、市全体でかなりの定員超過が明らかになりました。施設基準も40名となり、環境改善が急がれます。今回は国からの補助金で急ぎよ決まったものですが、将来を見据え、計画的で迅速な整備が必要です。強く訴えていきます。

